

第 7 期 新宿区多文化共生まちづくり会議の審議テーマについて

1 審議テーマ

「多文化共生の推進に向けた交流について」

2 理由

○ 令和 5 年度に実施した多文化共生実態調査では、外国人住民と日本人住民ともに「交流」に関する回答が高かった。

・「新宿区が進めるべきこと」という質問では、「交流会やイベント」との回答が外国人住民で 1 位 (46.5%)、日本人住民で 2 位 (37.9%) と高かった。

○ 前期の第 6 期会議では、「地域における多文化共生意識の醸成について」を審議テーマに議論を進めたところ「交流」に関する意見が多かった。

・日本人と外国人が交流して親しくなることで、いろんな問題を話しやすくなる。等

○ 前期の第 6 期会議では、大久保地域のまち歩きと施設見学を行った。

地域センターや図書館といった施設では、日本人と外国人の交流拠点として様々な取組が行われていた。多文化共生の推進のためには「交流」が重要であることを再認識した。

○ 委員に第 7 期テーマのご意見を伺ったところ、次のご意見をいただいた。

【交流に関するご意見】

「「交流のあり方について」を提案します。地域のお祭りやイベントへの外国人の参加を促して地域コミュニティの活性化させ、地域課題を解決していきたいと思っています。」

【振り返り（区の取組の検証と評価）に関するご意見】

「Plan-Do-See の中の See の時期と思う。これまでを振り返り、また、実態調査の結果も踏まえ、現時点での課題の洗い出し、今後取り組んでいくべき事項と優先順位の提案を行ってもいいのかと思います」

【偏見・差別に関するご意見】

「偏見・差別をテーマにしてもよい。外国人と日本人が思っている偏見・差別にずれがあるかもしれない。」

「交流」をキーワードに審議を行うことで、相互理解と地域コミュニティの活性化を図り、多文化共生をさらに推進することができる。

また、交流会やイベントを知らせるための「情報提供」や、コミュニケーションを図る「日本語学習」など、これまでの取組の振り返りを行うこともできる。

さらには、「交流」により互いの文化を認め合うことで「偏見・差別」の解消につなげることができる。

このように、委員のご意見を反映することが可能である。

以上のことから、第 7 期のテーマを、「多文化共生の推進に向けた交流について」とする。